

平成13年2月期 第3四半期の業績等の概況

上場会社名 株式会社スギ薬局
 (コード番号 7649 NJ)
 本店所在地 愛知県安城市二本木町二ツ池33番地5
 問合せ先 責任者役職名 取締役副社長管理本部長
 氏名 杉浦 昭子
 TEL 0566-73-6300

1 業績

(百万円未満切捨て)

(1) 平成13年2月期第3四半期(平成12年3月1日~平成12年11月30日)の業績

	13年2月期 第3四半期 (当四半期)	対前年同期 増減率	12年2月期 第3四半期 参考(前年同四半期)	参考 前年(通期)
売上高	29,256 百万円	39.4 %	20,987 百万円	29,249 百万円
営業利益	1,873	47.7	1,268	1,697
経常利益	2,055	44.6	1,421	1,921

(2) 部門別の売上高内訳

	13年2月期 第3四半期 (当四半期)		対前年同期 増減率	12年2月期 第3四半期 参考(前年同四半期)		参考 前年(通期)	
	金額	構成比		金額	構成比	金額	構成比
	百万円	%	%	百万円	%	百万円	%
調剤薬	1,310	4.5	46.3	895	4.3	1,257	4.3
ヘルスケア	8,929	30.7	42.3	6,273	30.1	8,918	30.7
ビューティケア	7,128	24.5	42.3	5,008	24.0	6,861	23.6
ホームケア	6,818	23.5	35.3	5,040	24.2	6,907	23.7
ベビーケア	2,670	9.2	27.4	2,095	10.0	2,898	10.0
その他商品	2,200	7.6	41.8	1,552	7.4	2,236	7.7
小計	29,057	100.0	39.3	20,865	100.0	29,079	100.0
その他収入	199	-	63.7	121	-	169	-
合計	29,256	-	39.4	20,987	-	29,249	-

(3) 主な資産・負債の変動について

項目	13年2月期 第3四半期 (当四半期)	増減額	前期末
(資産)	百万円	百万円	百万円
現金及び預金	8,719	4,638	4,081
有価証券	700	700	-
商品	4,915	1,810	3,104
差入保証金	820	304	516
(負債)			
買掛金	5,854	1,781	4,073
未払法人税等	545	347	892
長期借入金	424	480	904

(注)当四半期に係る数値について、公認会計士又は監査法人の監査は受けておりません。

2 業績の概況

わが国の経済は、設備投資が上向き、ゆるやかな景気回復基調にあるとの政府の発表にかなりの期待が持たれておりましたが、景気回復の下方修正が行われ、株価の急激な悪化や、アメリカの景気減速の影響を受け、依然として不透明な状態が続いております。相次いで大手企業同士の業務・資本提携や外資系企業との業務・資本提携が発表され、生保・損保会社の相次ぐ破綻や提携・合併が報道されております。また、過去最高の倒産件数、過去最高の負債総額、日経平均株価の最安値、企業のリストラ策が進み、雇用不安は解消されないまま、以前にも増して厳しい状況が続いております。

そのような厳しい経済環境の中で小売業は全体的に低調に推移しており、当社が置かれておりますドラッグストア業界も、以前のような高成長は難しくなりつつあります。ドラッグストア同士の競争や大手GMS系列との価格競争、100円ショップの台頭、外資の参入等々異業種・他業種との競争も激化し、生き残りを掛けた「サバイバル時代」となりつつあります。このような状況の中、当社は経営理念を推進し、当四半期までに19店舗、全店調剤併設型のビジネスモデルに基づいた新規出店を行い、業績を拡大させて参りました。また、11月には、当社としては初めての駅前立地への出店を行い、100店舗達成を致しました。

また、9月より新顧客システムを立ち上げ、以前にも増してお客様へのサービスの向上に努め、ワン・トゥ・ワン・マーケティングに取り組んでおります。今後は、個々のお客様の単品お買上データを蓄積し、データベース・マーケティングへ活用する計画でございます。

また、従来の電話回線によるテレビ会議システムを9月から衛星放送によるシステムに切り替え、出店地域の広域化及び出店の加速化にも対応した教育制度も確立しております。地域密着型のかかりつけ薬局を目指す当社にとって、お客様から信頼される社員を育成していくことが大切であるとの認識のもと、更なる教育の強化を行って参ります。

(売上高)

当四半期の売上高は、29,256百万円(対前年同四半期比39.4%増、8,269百万円増)となりました。来店客数も12,999千人(対前年同四半期比41.3%増、3,801千人増)となりました。客単価は不況の影響及び価格競争激化の影響で対前年同四半期対比33円減となっておりますが、客数増加が売上増に繋がっている状況であります。また、部門別では、高利益率で専門性の高い主力部門の、調剤・ヘルスケア・ビューティケア売上が前年同四半期売上の平均伸び率を大きく上回っております。当社は全店調剤併設型のドラッグストアであり、お客様から信頼される「かかりつけ薬局」を目指しておりますので、今後も、専門性の部門には力を入れて参ります。

(売上原価および売上総利益)

当四半期の売上原価は、21,470百万円(対前年同四半期比40.0%増、6,132百万円増)となりました。売上総利益は、7,786百万円(対前年同四半期比37.8%増、2,136百万円増)となりました。6月の株式上場記念お客様還元セールにより、半期決算では売上総利益率が26.2%になりましたが、当四半期決算では、少し回復し、26.6%に上がっております。消費不況に伴い、大手GMSやホームセンター、同業他社などの価格競争もあり、売上総利益率を大きく上げることは難しい状況ではありますが、専門性を重視しながら、利益確保を行っております。

(販売費および一般管理費)

当四半期の販管費は、5,912百万円(対前年同四半期比34.9%増、1,530百万円増)となり、販管費比率も前年同四半期20.9%に対し、当四半期は20.2%と0.7ポイント低減させることが出来ました。これは、景品・宣伝物の調達先等の見直しを進め調達コスト削減が図れたことが主な原因であります。トータルで販管費は削減出来ているものの、人件費は、9月に新顧客システムの導入があり、旧顧客システムとの入れ替えの為の人時コストが臨時的に発生し、100百万円の予算超過となりました。今後は、人件費を含めての販管費削減が課題であります。

(営業利益)

当四半期の営業利益は、売上高が伸びたことを背景に、1,873 百万円（対前年同四半期比 47.7%増、605 百万円増）となりました。そして売上高営業利益率は前年同期の 6.0%から 6.4%に向上いたしました。価格競争による売上総利益率低下はあるものの、販管費比率の低減により、売上高営業利益率の向上を図っております。

	13年2月期 第3四半期 (当四半期)	12年2月期 第3四半期 (前年同四半期)
営業利益	1,873 百万円	1,268 百万円
売上高営業利益率	6.4%	6.0%

(その他収益および費用)

当四半期のその他収益に関しましては、営業外収益が 251 百万円（対前年同四半期比 43.5%増、76 百万円増）となりました。営業外費用は、70 百万円（対前年同四半期比 220.4%増、48 百万円増）となりました。このうち株式上場費用として、雑損失に 34 百万円、新顧客システム導入によるポスレジの入れ替え廃棄による雑損失で 17 百万円が計上されております。支払利息に関しましては借入金の削減により、6 百万円減少しております。

(当期純利益)

当四半期の当期純利益は、989 百万円（対前年同四半期比 56.8%増、358 百万円増）となりました。売上高当期純利益率は、前年同期の 3.0%から 0.4 ポイント向上し、3.4%となりました。

(資産、負債、資本)

流動資産は、15,170 百万円（対前期末比 95.6%増、7,416 百万円増）となりました。株式上場による調達資金もあり、現金及び預金は、8,719 百万円（対前期末比 113.6%増、4,638 百万円増）となりました。また、棚卸資産は、19 店舗の新規出店及び今後の出店のための商品在庫が増加したこともあり、4,963 百万円（対前期末比 58.3%増、1,827 百万円増）となりました。

固定資産は、4,493 百万円（対前期末比 27.0%増、954 百万円増）となりました。これは新規店舗 19 店舗分の建物、器具備品、差入保証金、建設仮勘定の増加及びタキヤ商事株式会社に対し 70 百万円出資したことによる投資有価証券等の増加が主な原因であります。

流動負債は、8,745 百万円（対前期末比 17.0%増、1,271 百万円増）となりました。買掛金が売上規模の増加に伴い、5,854 百万円（対前期末比 43.7%増、1,781 百万円増）となりました。

固定負債は、858 百万円（対前期末比 34.6%減、455 百万円減）となりました。借入金は、順次返済を行う方針であり、長期借入金返済により、424 百万円（対前期末比 53.1%減、480 百万円減）になりました。

資本の部合計は、10,059 百万円（対前期末比 301.6%増、7,554 百万円増）となりました。これは、株式上場により資本金及び資本準備金が 6,580 百万円増加したことが主な原因となっております。その結果、総資産は 19,664 百万円（対前期末比 74.1%増、8,370 百万円増）となりました。

(設備投資)

当四半期の設備投資額は、有形固定資産 701 百万円、無形固定資産 58 百万円、差入保証金 341 百万円の合計 1,102 百万円となりました。そのうち、新規出店 19 店の設備投資額は、942 百万円であり、その主な内訳は下記のとおりです。

開店年月日	店名	所在地	金額
平成 12 年 3 月 29 日	長久手店	愛知県長久手町	64 百万円
平成 12 年 4 月 19 日	菰野店	三重県菰野町	51 百万円
平成 12 年 5 月 17 日	浄心店	名古屋市西区	47 百万円

平成12年 6月 1日	神ノ輪店	豊橋市神ノ輪町	26 百万円
平成12年 6月 1日	東田店	豊橋市東田町	48 百万円
平成12年 7月 5日	小坂井店	宝飯郡小坂井町	68 百万円
平成12年 7月 12日	安城中央店	安城市桜町	64 百万円
平成12年 7月 19日	月見店	大府市月見町	49 百万円
平成12年 7月 26日	各務原店	各務原市蘇原花園町	49 百万円
平成12年 8月 2日	朝日店	豊田市朝日町	63 百万円
平成12年 8月 9日	元宮店	豊田市元宮町	37 百万円
平成12年 8月 23日	上重原店	知立市上重原町	78 百万円
平成12年 9月 6日	打中店	名古屋市巾川区	48 百万円
平成12年 9月 13日	前山店	豊田市前山町	75 百万円
平成12年 9月 20日	南一番店	名古屋市熱田区	39 百万円
平成12年 10月 18日	アクス鈴鹿店	鈴鹿市北玉垣町	16 百万円
平成12年 11月 1日	大清水店	豊橋市大清水町	32 百万円
平成12年 11月 15日	東柳原店	津島市東柳原町	39 百万円
平成12年 11月 29日	神田店	豊田市神田町	40 百万円

(注) 当社第1四半期決算短信における新規出店による設備投資額にはリース資産が含まれております。よって今回の数値と一致しておりません。

(キャッシュフロー)

当四半期の現金及び現金同等物は、前期末の3,263百万円に対し、4,104百万円増加し、7,368百万円となっております。営業活動によるキャッシュフローは、780百万円増加しております。これは、税引前当期純利益が2,073百万円あり、棚卸資産の増加により1,827百万円、法人税の支払いにより1,431百万円減少するという要因に対して、仕入債務の増加により1,781百万円増加していることが主な要因となっております。投資活動によるキャッシュフローについては、2,598百万円減少しております。これは、定期預金等に774百万円、出店費用等による有形固定資産として814百万円及び有価証券に700百万円投資を行っているのが、主な原因となっております。財務活動によるキャッシュフローについては、5,921百万円増加しております。これは、主に株式の新規発行による6,580百万円の資金の増加によります。

3 当期の見通し

当四半期を経て、売上高が、29,256百万円(対予算比7.4%増、2,019百万円増)となっております。また、経常利益も2,055百万円(対予算比25.4%増、415百万円増)となっております。

今後の見通しといたしましては、決算期末に備え、欠品対策、万引対策等、基本的な事項の徹底を進め、利益の確保に最善を尽くして参ります。現時点では、今期計画の25店舗出店および売上高39,066百万円は必達できるものと確信しております。

	13年2月期 第3四半期実績 (当四半期)	13年2月期 第3四半期予算 (当四半期予算)	達成率
売上高	29,256 百万円	27,237 百万円	107.4%
営業利益	1,873 百万円	1,502 百万円	124.7%
経常利益	2,055 百万円	1,639 百万円	125.4%

(注) 以上の当社、予想数値、業績予測は、現在得られている各種情報などから判断した将来情報でございます。当社の市場における一般的な状況、天候、景気および消費動向の変化、消費者の嗜好変化などによるリスクや不確実性を含んでおります。

4 その他

当社は、平成12年7月31日に株式分割の発表を行い、平成12年10月20日付で株式分割を行い1株を2株に分割しております。また、平成12年12月7日開催の当社取締役会において、株式単位の括りなおし、及び株主優待制度の新設の決議を行いました。なお、株式単位の括りなおしにおいては平成13年5月中旬開催予定の当社株主総会の決議を条件と致します。